

2016年4月1日

<< 2016年度新入社員入社式式辞 >>

皆さんも、これから現実の世界に出て次々と想定外の困難に出会うことと思う。大変化の時代には、困難に見える側に身を置くことで自分を深化させるべきだ。そうした選択肢は、しかし、未経験ゆえに失敗をすることも多い筈、困難を選び、尚且つその為に失敗する勇気をも持って欲しい。失敗することになっても逃げず怯まず、失敗から学び、大きく成長して欲しい。新人の皆さんは当社の未来を拓く技術開拓者、高い志を持って頑張ってください。

(株) アイヴィス 代表取締役社長 石和田 雄二

1. はじめに : ケヤキの様に足元を固め、天に向かって大きく成長せよ!

今朝、御茶ノ水から来ると新装なった医科歯科大の構内桜並木に眼が止ります。東京の桜開花宣言は3月21日、11日も前ですが、寒の戻りがあり、暫く3分以下でした。若い桜の樹ですが、漸く今、青空に映え美しく咲き始めています。皆さんの門出をに祝う様に、これから、満開に向け一斉に咲き揃うでしょう。

45名の新卒の皆さん、入社、おめでとうございます。国内33名、国外採用12名、ドクターもマスターも、高専の人もいます。ITの素材に優れた多様な人材が、それぞれの想いを胸に秘め、社会人としての第一歩をアイヴィスで踏出します。一日も早く皆さんに自立し活躍して貰いたく、期待と責任で身が引締まります。

海外の景気後退を背景に、順調だった日本経済にも翳りが見え始めました。停滞に向かう時代こそ、真の技術革新に通じるITの活躍が求められている。IT業界は、モバイルクラウドの社会インフラの下、IOT、ビッグデータ、AI、ロボティクスなど問題解決力の高い新技術が現出、愈々、本格的な実用化に向かって社会の応用の場で現実に動きが出てきた。この機会に、当社は明確な目標を持って高度成長に向けて挑戦したい。今期から基盤整備3年計画として技術基盤の再構築を狙う。発想力に富んだ多くの若い技術者達の参加が今こそ必要な時期です。潜在能力が高く、チャレンジ精神に溢れた今年の新人達の活躍を期待している。

街路樹のケヤキの頭にも薄っすらと新芽が出始めていますが・・・、皆さんもあのケヤキの様に、足元を固め、天に向かって大きく成長、羽ばたいてほしい。

2. 経営環境 : 時代は大きな変動期、止まっているは捨てられる。

シャープが台湾の EMS ホンハイの資本参加を受け入れ、国内大手電機として初めて外資の傘下に入り、復活に向けて動き出します。あの電卓や液晶などを創り出した伝統の企業が、経営面で行き詰まったのです。東芝の不祥事も、環境変化の中で総合電機としての経営が、限界に達して成立しなくなったのでしょう。虎の子の東芝メディカルと白物家電を売り切って取敢えずの窮地を脱するが、原子力とメモリー、空調や昇降機などの社会インフラで戦えるのか、「東京芝浦電気」、家電由来の伝統の大企業、厳しい前途が待ち構えている。日立とソニー、パナソニックも漸く復活しましたが、未だ前途は厳しい状態だ。リーマンショックから7年、数千億の赤字に耐えながら、総合電機の衣を脱ぎ捨て、TVやPCの製造も辞め、白物家電さえも譲り渡した。変革に向けて経営の軸足を移し、日立は社会インフラ、ソニーは画像半導体と映像機器とコンテンツ、パナソニックは車載機器と住宅に特化、大々的な人員整理、リストラも断行、それで蘇った。

総合電機の挫折を単純に企業経営の問題として見るのは誤り、環境変化の渦中にある高度成長期の遺物、横並び体質の総花的な業態が機能しなくなったのだ。国内だけで成立つ形のガラパゴス経営、現状維持の内向き姿勢に問題があった。経済のグローバル化の進展と、発展途上国の急成長に伴う市場の拡大、需要増と競争激化が背景にある。

日本の二大商社、三菱商事と三井物産が、今期揃って巨額の赤字を計上する。資源ビジネスが成立しなくなっても、過去の収益源から容易に変わらない為だ。経済環境に大きなインパクトを与える構造要因には、その他、次々と出てくる。中国経済の急減速、中東政治の不安定化に伴う欧州の難民問題と不協和音、米国の内向政策、その他、地球環境問題、資源・エネルギー問題、日本固有の少子高齢化の問題もある。

日本は再び転換期を迎えており、大企業の失敗は他山の石、我々の反省材料だ。従来 of 発想で、従来 of 場に止まっている限り、立ち行かなくなるのは必然、突破するには、若者の斬新な発想と潜在能力を高める IT サービスの力を借り、自己変革への強い意志の下、絶えざるイノベーションの努力の積重ねが必要だ。現状を甘く見ず、気を引締めるべきだが、リスクは同時に主役交代のチャンス、目標高く、即断即決、課題解決への努力を続けるなら、未来への道が拓かれる。

3. IT サービスの新しい芽 : IT の成長分野に乗り、当社の未来を拓く。

第一次産業革命は蒸気機関、大量生産を生み出した第二次産業革命は電気、情報の高速大量処理で企業を支え効率化を実現した計算機の第三次産業革命、そして今、豊かな社会の新たな価値を創造する第四次産業革命が始まっている。その中核にある媒体が IOT、モノがインターネットにつながる技術だ。モノが発信する情報を分析、活用することで防災防犯に役立て、機械設計まで担い、社会問題の解決や家電の有効活用など社会と産業の高度化を実現する。IOT は専用検知機能を持つ送受信機器と制御機器の組合せだけではありません。携帯を持つ人も、車も、飛行機もマクロに見れば動く情報発信端末であり、GPS と連動させれば、車の流れから渋滞解消や天気予報の精度向上にも役立ちます。

当社も工場の部品や材料の搬送車の自動運転を手掛けてきました。組立てラインに部品や材料を届ける搬送車に位置情報付の IOT 端末を取り付け、すべての搬送車の位置検知を行いながら、目的地へ自動走行が出来る様にした。発信する情報の目的は、車両の無人走行より工場の物流に関わる改善改良です。当社担当のもう一つの仕事、車両カルテもビッグデータに繋がる仕事です。所有者を超えて車両の生涯に亘るすべての点検、部品交換と故障診断、修理データを集め、車種・モデル・交換部品、運転状況・地域・修理工場などの特性から、故障の予見予防や設計保守サービスの在り方を分析する。

第四次産業革命は、ドイツではインダストリー4.0、米国では IOT と呼ばれ、GE などでは、インダストリアル・インターネットと称され、それぞれの協会を通じて技術の交換や実験、工場への適用が実施され、多大な成果を上げている。GE では、性能試験中のエンジンやタービンの貴重なデータを設計側に戻すなど、先進的な製造業では今、IT+IOT による第4次産業革命が進行中です。論理のプログラミング時代からデータに学ぶデータセントリックの時代へ、ビッグデータを AI が解析、課題に対して IT が自ら新たな解を提示する時代です。

IOT は単独でなく、ビッグデータ、AI や既存のシステムと連動して価値を生む。ロボットや携帯、店頭の商品や製品にも IOT となる流れがそこまで来ている。社会的な要請を背景として、IT サービスは次代を拓く重要な社会インフラとなりつつあり、先端技術の実用化と共に、IT サービス産業は、新たな成長期を迎えている。日本経済は今、本格的な減速に向かう潮目にあるが、当社は、新たな IT サービスの可能性を視野に、先端技術で更なる成長を狙う。

4. 当社の現状と将来目標 : 目標高く着実に、その為の基盤整備計画

当社は、昨日平成 27 年度の最終日を迎えましたが、当初計画通り、目標の 2 期連続二桁増収増益、売上超 36 億円、利益 6 千万は達成しました。

当社はベンダー系では、NTTデータ、日本ユニシスと特に親しい関係にある。データは、携帯のインターネットポータル、i-Mode が始まった 2003 年頃から基盤開発を担当、今は、スマホの営業管理も含め 40 名近くが担当している。日本ユニシスは、自分の出身母体だが、当社に元常務以下、8 名近くがいる。出発は、CAD/CAM/CAE などのエンジニアリング系が中心であったが、今は、広く金融、公共、流通の SI サービスを担当している。

エンドユーザー系では、トヨタ自動車との関係が深く、トヨタ・コミュニケーション・システムを介し、研究開発業務から CAD/CAM・PDM 等現場に密着した様々な IT サービス、開発案件を担当させて貰っている。その他に住友金属鉱山やパナソニックなど、大物サービス案件は民間中心だが、理研（理化学研究所）、産総研（産業技術総合研究所）、NII（国立情報学研究所）、JAXA（宇宙航空研究開発機構）、日本海事協会、豊田工業大学、順天堂大学、名古屋大学等、科学技術の明日を拓く研究機関や大学の開発支援も行っている。

リーマン危機から 6 年、何度も売上超 30 億に挑戦して出来なかったのが、前期は 32 億円を超え、今期も連続二桁成長の売上高 36 億円超を達成した。需要が底堅く、顧客、技術、人材、信用、当社の経営基盤が整ったからだが、27 年間の努力の積重ねで、今漸く拡大成長へアクセルを踏み込むことが出来た。基盤整備 3 年計画の一環として今年からは生産性向上に重点を移して行く。

今までは、どちらかというと、実装とサービスを中心とした量的拡大、これからは、専門分野の差別化を進め、仕事の質と効率を追求する。当社の技術の先導役としての応用技術開発部を強化したい。現場では、仕様を詰められる専門性の高い上流 SE、SA を育て増やす。開発ツールや開発環境の整備、一般の技術教育と同時、仕様のチェックや指導、レビューを徹底し、品質保証と共に組織開発力を高めて生産性向上を実現する。

基盤整備 3 ヶ年計画最終年 18 年度（19 年 3 月期）での目標は、社員 520 名、売上 50 億、利益 3 億円水準の達成、技術本部設立と事業部制への移行である。その後は、製品やライセンスにも注力、M&A で新分野への進出も模索したい。次期 3 年計画で、ベンチャー体質を維持しつつ業界の上位企業を目指して行く。23 年 3 月期に社員 700 名、自社商品とライセンスで売上超 100 億を目指す。

5. 新入社員への期待 : 3年後は高度専門技術者、5年後は各部支える PL。

それぞれの能力、個性の違う新入社員の皆さんを一様な新人扱いはしたくない。機会の平等は保ち、誰にも何度も、再チャレンジの場は創るが、仕事や役割、業績評価は実力と成果を優先する。

これからの当社が必要としている人材は大きく 3 種類、

第一のカテゴリーは、先端技術をリード出来る高度な研究開発型専門技術者。

第二のカテゴリーは、IT サービスの職業的専門家としての健全な SA、SE。

第三のカテゴリーは、情報処理専門家としての見識、知識豊かな実装技術者。大学院のマスター、ドクター出身で、画像処理認識、人工知能、ロボット関係 IOT 実務を専門として研究をしてきた人は、優先的に<第一>の役割付をする。当社が今、スピード感を持って、先に進むには即戦力の専門家の参加が必要だ。<第二>は、将来、プロジェクトの PL や PM としての活躍を期待する人材で、業務システムの構造を知り、顧客要求をシステム要件や仕様に展開出来る人だ。今当社でも最も不足している人材で、資格と実力があれば若年層でも抜擢する。<第三>は、計算機ソフト専門家、ソフト開発のプログラマから出発、汎用 OS、言語処理系、DBDC、各種アルゴリズムやセキュリティーにも深い造詣を有し、実践に学んで情報処理試験の応用技術者を経て複数の専門資格を持つ技術者。新人講習は、会社のオリエンテーションや同期として共同作業をする場であり、各自は、自らの将来像を重ね、自主的な勉強や研究開発活動を続けてほしい。どの道も簡単ではないが、3年を目途に計画を立て努力を続け、実現して下さい。

<第二><第三>は、前述したが経産省の外郭団体が行う情報処理資格試験の基本技術者試験、応用技術者試験を、2年~3年を目標に必ず取得して下さい。資格取得訓練は、日本語での問題理解、議論や思考、表現力の向上に最適です。一定水準の知識や思考力がなくては、現場の OJT や実戦も成長の場にならない。

システム開発は同じ顧客で同じものを作ることはなく絶えず新たな挑戦です。人であれ企業であれ未知の世界に踏込めば必ず困難や課題問題に遭遇します。会社としても、システム実装に必要な組織的 IT 支援体制が不可欠ではあるが、現場には問題再定義の経験的ノウハウに加え、達成への強い意志と努力が必要、問題解決に真剣に取り組む、知恵を絞ってベストな解決案を案出するべきである。IT サービスは結局は人、優れた会社の必要条件は技術者の必要条件でもあります。新人の皆さんも今から心掛け、そうした技術者になるべく努力をして下さい。

6. 新入社員の心構え : 将来を担う新社員に、今心掛けて貰うこと

入社に当り、当社の将来を担う新入社員の諸君に私の期待を述べておきたい。基礎知識と考える力が基本ですが、まず、人間的に逞しく成長して欲しい。

○1 健全な社会人たれ。

人生は夢を追いかけるプロセス、若者は人生に賭けるべし。

その為に、健康である、仲間がある、社会に自分の活躍の場があること。

○2 強い頭と強い心の持主になれ。

長い人生の中、人間誰しも困難な状況に遭遇することがある。

困難を超えて人は大きく成長する。逃げず惑わず冷静に問題に立向うこと。

○3 自分の殻を破って不断に成長せよ。

成長とは高い目標に向かって現状の自分の限界を超えること、

現状に甘えず、未来から考え異質な人に学び、外部の知を得て挑戦すること。

その為には、どうすれば良いのか、『社会人1年生へのアドバイス』です。

「継続は力なり : 目標を持って努力、準備と忍耐、好機に全力疾走」

好機は必ず来ます。

他の人は気づかないが、目標を持って努力を続けている人に好機は必ず来ます。

仕事をする上の心掛けを6つ挙げておきます。

☆1 具体的な中期の明確な目標を立てる。

1年後3年後の自分の目標を立てる。まず、情報処理技術資格を取れ。

☆2 出だしが大切、準備を怠らず。

最初の出だしと基礎知識習得が大切。参考書も買い3ヶ月は勉強に集中。

☆3 まず第一歩を踏出す。

考えたら踏込む。迷ったら困難な道を選ぶ。自分の位置を常に確認する。

☆4 継続は力なり。

前向きな気持ちで努力を続けるなら、見えなかったものが見えて来ます。

☆5 石の上にも3年。

3年我慢すれば自分が解り、SEが解り、チームワークの楽しさが解る。

☆6 原理原則、現場現物現実に学ぶ。

難題に遭遇したら冷静に現実を分析し、可能性を探す。好機には全力疾走。

7. おわりに : 失敗を恐れず、まず、踏込んで現実の困難から学ぶべし!

当社はこの3月末で創業以来28期目を超えた。

3人で会社を立上げ、この「失われた20年」を超えて28期連続で黒字達成、大不況も4回あり、

東日本大震災を含めて予想外の困難には何度も遭遇した。

それでも大きく崩れなかったのは、挑戦する仕事が続えなかったからである。

時代がITの大きな変革期で、次世代技術の成長期に当たっていたことが幸いした。絶えず新技術が生れたが、その開発に正面から取り組むことで会社を成長させた。体制側で仕事をする人より、新規挑戦者の方が真剣だったからでもある。

時代の大きな変化を困難と見るか、好機と見るか、

必死に浮上しようとする参入者には、困難な時代変化が好機に映る。

変革期に同じ所に止まれば時代に棄てられるが、体制側の人にはそれが解らない。

時代の変化と闘う中で自己変革の大切さを知り、問題解決への心構えを学んだ。

その後、多くの困難な局面に立たされたが、正面から取り組むことで解決出来た。

皆さんも、これから現実の世界に出て次々と想定外の困難に出会うことと思う。

大変化の時代には、困難に見える側に身を置くことで自分を深化させるべきだ。

そうした選択肢は、しかし、未経験ゆえに失敗をすることも多い筈、

困難を選び、尚且つその為には失敗する勇気をも持って欲しい。

失敗することになっても逃げず怯まず、失敗から学び、大きく成長して欲しい。

新人の皆さんは当社の未来を拓く技術開拓者、高い志を持って頑張ってください。

行動原則1 失敗は若者の特権、まず、失敗を恐れず渦中に踏込め。

鍛えた頭と心、責任感とほんの少しの勇気を以って未知の世界に踏込む。

行動原則2 失敗した場合は、困難な現実から学ぶ又とない機会とせよ。

困難こそ自分を鍛えてくれる教師、傍観者や口先だけの評論家になるな。

今日は、皆さんの社会人生活への新しい門出、改めて、お祝いします。

本日は、入社、誠におめでとうございます。

私も、あと3年で一流企業への企業基盤を創るべく、

皆さんの若い力も借り、先輩達と共に難題を1つずつ乗り越えて行く覚悟です。

皆さんは7年後、当社と日本社会を支えるSEになれる様、頑張ってください。(了)